



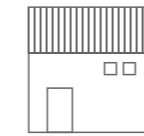
令和3年度  
いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

# 木の家で暮らそう。

虫の音、鳥の声、風の通る音。

四季ごとに変わる影の角度、季節の香り。

五感が喜ぶ開放感。木の家だからこそその味わい。



令和3年度  
いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集

この冊子は「いばらき地域適合型木造住宅」の基本的な考え方を啓発普及するために作成されたものです。掲載される記事内容はすべて各チームからの提出書類を要約したもので、「宣伝広告」を意図したものではありません。  
また当連合会では、これら各グループへの仲介斡旋は一切行っておりません。



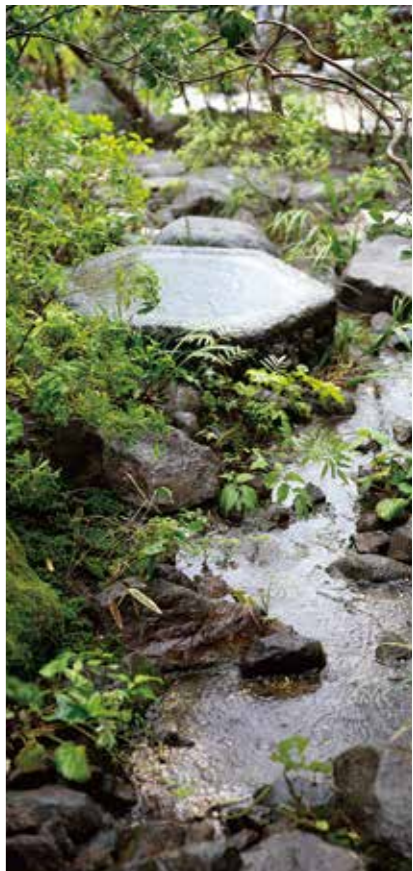
木造住宅相談店

主 催 / 茨城県木材協同組合連合会  
協 力 / 茨城県  
後 援 / (一社)茨城県建築士事務所協会・(一社)茨城県建設業協会

〈お問合せ先〉  
茨城県木材協同組合連合会  
TEL.0294-33-5121 (代) FAX.0294-33-5191  
(e-mail) mokuren@atlas.plala.or.jp  
茨城県土木部都市局住宅課  
TEL.029-301-4759 FAX.029-301-4779

## 地元の大工が地元の木で作る。 日本の「いい家」のつくりかた。

■地元の大工が地元の木で建てるといい家になる、と言われます。南北に長い日本は気象や地理条件が地域で異なり、その土地独自の材の選び方、組立方など長年積み重ねられた経験や工夫を取り入れる地元の大工こそが、長く住める家を建てられるからです。また、地域大工・工務店は完成後もきめ細かいアフターメンテナンスや修繕に対応します。地域には信頼関係に根ざした安心できる家づくりのシステムが構築されていたのです。■茨城県では家づくりの原点に戻り、地域が育んだ木材を利用し現代のライフスタイルに合う木造住宅を適正な価格で提供するため、地域の「大工・工務店」と建築設計事務所が連携・協力しながら、家づくりを通して建築主との信頼関係を育てていく、安心と信頼の地域ルール「いばらき地域適合型木造住宅供給システム（自然が育み、人の和が育てる）」を確立したいと考えています。■関連事業者の連携、協力のもとに提供された良質な木造住宅の企画や提案を含む建築実例を募集し、ここにまとめました。皆様の家づくりの検討の一助となれば幸いです。



### Contents

#### ● 水と緑と木の家

岩瀬卓也建築設計事務所 + (株)木楽工房 01

#### ● 鮎川の家

包建築設計室 + 高萩建設 02

#### ● 大島の家

Coba設計 + 佐藤建築 03

#### ● 苺畑に馴染む平屋

大竹建築工房 + 大竹建築工房 04

#### ● ずしりたたずむ家 - 下館の暮らし -

木屋建築設計事務所 + (株)大崎材木店 04

#### ● 茨城県木造住宅協同組合連合会のご案内

(社)茨城県建築士会会長 柴 和伸 08

#### ● 「いばらき適合型木造住宅」とは

06

#### ● [講評]

05

## 最優秀

# 水と緑と木の家

岩瀬卓也建築設計事務所 + (株)木楽工房

次代に残したい技術、無垢材、木の家。  
自然の恵みと職人の手仕事が一体化。

■七人家族の住まいは、水と緑が涼を運び、手仕事のぬくもりが広がる木の家だ。敷地の中心に庭を据え、これを囲むコの字の平面をもつ建物を配置した。二階の居間に重心を置き、その対となる位置に離れのような客間。様々な位置から庭を愉しめる。家の骨格は県産材をすべて手刻みで加工。軸組には地元の大工技術と部分と全体に行き渡らせ、土間床のLDKと土庇空間、濡れ縁を持つ和室や客間にも、左官・建具・板金・石工など、職人技を惜しみなく施した。家そのものが、次代に残したい技術の結晶です。■庭の緑は雑木で構成され、夏は葉が茂って涼しげな木陰を作り、冬は落葉し日差しを届けるといふ落葉樹の性質を生かす、機能美も兼ねた樹木配置。深い軒の出と相まって風土に適した住環境を形成する。原始の風情を志向したビオトープには蛙やメダカが棲み、鳥のさえずりが響く。静かに流れる「水」、息づくどりの「緑」、手仕事を伝える「木」。三重奏が家族団らんにも潤いと安らぎを演出する、深呼吸したくなる住まいが誕生した。



玄関アプローチから見る中庭



縦の組子の障子はシンプルかつ洗練された空間を演出



申請者：岩瀬卓也建築設計事務所 0294-72-6121  
工事施工者：(株)木楽工房 0294-85-8686  
延床面積(坪)：198.18㎡(59.92坪)



LDKと一体になり、庭へと続く土庇空間

●…令和3年度いばらき地域適合型住宅コンペ「最優秀」作品 ●…「優秀」作品  
※応募作品ページ以外 および 表紙に掲載された写真はすべて「最優秀賞」「水と緑と木の家」のもので、  
※受賞者の意向等により、「坪単価」「延床面積」「平面図」等の掲載がない作品もございます。ご了承ください。 ※各作品の「坪単価」は税別価格です。

優秀

# 鮎川の家

包建築設計室 十高萩建設



天井高を抑え、落ち着ける空間として機能するリビング



道路から見た西側外観。格子のアクセントが全体を引き立てる。



2階の多目的スペースと畳間。差し込み自然光が優しい。

プライバシーを確保しつつ囲いすぎない絶妙さ。オン・オフを明確に分け庭を愉しむ暮らしを実現。

■国道から入った市街地。朝夕は交通量が多く、二方向に道路が走る南北に長い土地の事務所兼住宅。プライバシーを確保しつつ、外部に向けて閉じすぎない仕掛けが必要だった。■  
■塀で完全に囲うのではなく、開口部や植栽の位置の工夫で往来する人の視線を外す。採用。道行く人にも木の美しさを感じてもらった。■  
■住まい部分と仕事室を明確に分けたが、水廻りはどちらからもアクセスしやすい。LDK内に階段を設置し、吹抜けと共に上下階で空気の流れを作り出し、薪ストーブの暖気の循環を生み出した。開口部の工夫や庭の緑を分散させることで、風の通り道を作り、様々な角度から庭を愉しめるよう計算されている。■  
■吹抜けで開放感を持たせたダイニング、天井高を抑えて落ち着ける空間にしたリビングなど、多様な空間を



申請者：包建築設計室 0294-33-7125  
工事施工者：高萩建設 0294-42-2715  
延床面積(坪)：149.46㎡(45.12坪)  
坪単価：670,000円(税込)

年後には経年変化でいぶし銀に輝く様子を味わえる。

優秀

# 大島の家

coba設計 + 佐藤建築



広間にて、良質な木材が広がる広縁と子供室、ロフトへ…とぐらっと繋がる。床と勾配天井には県産材の八溝杉。



東西に走り抜けるロフト。客間や和室として使える畳スペース。



申請者：coba設計 090-4787-8727  
工事施工者：佐藤建築 0295-72-5620  
延床面積(坪)：133.42㎡(40.36坪)

「母屋」「納屋」「蔵」という農家の構成を現代風に。内と外が近く、空間ごとの表情が楽しい住まい。

■茨城の農村では「母屋」「納屋」「蔵」の構成が見られる。それらに囲まれた庭は、農作業をし、子どもが遊び、猫が昼寝する、ゆったりとした生活を味わうステージ。「現在、住宅の高性能化によって家の内部環境はより快適なものになった。その一方、内と外の境界が明確すぎて、昔より「外が遠い」と感じるようにもなった。「ちょうど出てくるね」「外にいるね」と気軽に繋がれる距離感のある家づくりを目指した。家族全員が休日はずっと庭で過ごすようになったという。■家で過ごす時間を大切にしたいという若い施主ご夫婦。L字

に配した住宅の半分を、納屋のようなゆったりとした軒下空間とした。庭仕事やバーベキューの道具をたぶら置ける外物置(四坪)は収納力が自慢。L字のもう一辺を住まいとなる「母屋」にし、空間性、機能性に富んだ間取りに。■地域の土工と共に、積極的に地域材の利用に取り組んだ。屋根には杉の二〇五角材を三尺ピッチで並べ、すべて化粧材とした。外壁も八溝杉を縦張りに、経年変化を愉しめる塗装に仕上げた。八溝杉という繊細で優しい材料が高性能化した住宅に、温かみのある雰囲気を作り出した。

# いばらき地域適合型木造住宅コンペ【令和3年度 概要】

※詳細はホームページ(<https://www.wood-ibaraki.jp/>)より「いばらき地域適合型木造住宅コンペ実施要綱」をご確認ください。

内容は令和3年度のもので、次年度以降は改めてHPで告知いたします。

## 趣 旨

### 地域が育んだ木材で 現代のライフスタイルに適した木の家を

地域の自然が育んだ木材を利用し、現代ライフスタイルにあった木造住宅を提供するために、地域の木工・工務店と建築設計事務所が連携、協力しながら、住まいづくりを通して建築主との信頼関係を育て、安心と信頼の住まいづくりの地域ルール「いばらき地域適合型木造住宅供給システム(自然が育み、人の和が育てる)」を確立することを目的として、これら関連事業者の連携、協力のもとに提供された良質な木造住宅の企画や提案を含む建築実例を求めるものです。

## 応募資格

- 県内に事業所を有する「建築設計事務所」及び「工事施工者」との組み合わせとし、登録申込代表者は建築設計事務所とします。なお、同一事業者が「建築設計事務所」及び「工事施工者」を兼ねることも可能です。
- 同一組み合わせでの複数案の応募又は他の事業者との組み合わせによる重複応募も可能ですが、その際の申請書等は一つの応募毎にまとめてください。



## 設計条件概要

### 【提案住宅】在来木造住宅

- 住宅の一部に小規模な事務所、店舗等を兼ねるものも対象。
- 新築に限らず、設計条件等をすべて満たす増改築又はリフォーム工事も対象。

### 【設計基準】

- 地域材を構造材全数量の50%以上使用すること。
- 内装材として、地域材を積極的に活用し、快適で安らぎのある住空間とすること(数量規定なし)。
- 住宅の長期の耐久性を確保し、地域の自然・景観・生活様式等と調和し、世代を超えて継承、持続されるような工法・間取り・デザイン等を採用すること。

※地域材とは次のいずれかに該当する木材及び木材加工品

- ① 県内の森林から生産された原木により製材されたもの
- ② 県内の製材事業所で製材されたもの

### 【その他】

- 県内で平成28年1月1日以降に施工したものであること。
  - 作品を当コンペに応募することについて、建築主等の関係者の承諾を得ていること。
  - 建築基準法その他の関係法令に適合するものであること。
- 基本仕様、部屋数等について要件があります。  
詳細は、茨城県木材協同組合連合会ホームページ「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」実施要項をご覧ください。

## 審査と表彰

有識者により審査委員会を設置し、応募作品の中から優れたものを優秀作品等として選定します。

- **最優秀賞**：賞状及び副賞20万円
- **優秀賞**：賞状及び副賞5万円
- **リフォーム賞**：賞状及び副賞5万円

## 応募手続き等

- ① 応募期間：  
**令和3年9月10日(金)～11月5日(金)**
- ② 応募申請書等：  
茨城県木材協同組合連合会ホームページ「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」をご覧ください。

## 作品集作成による情報発信(公表)

- 「いばらき地域適合型木造住宅コンペ作品集(本誌)」の作成
- 集客施設での情報発信イベント(作品のパネル展示会)の開催(コロナ感染拡大の状況を鑑み、開催方法が変わる場合があります。)大型商業施設等を活用した応募作品の展示等によるイベントを開催します。
- ホームページへの掲載  
作品集の内容は、茨城県木材協同組合連合会のホームページに掲載します。

登録申込  
及び  
募集先

〒319-2205 常陸大宮市宮の郷2153-38

茨城県木材協同組合連合会

TEL : 0294-33-5121 / FAX : 0294-33-5191

※登録申込については、期間内に直接持参していただくか、郵送(当日消印有効)してください。



申請者：  
大竹建築工房 0296-71-8516  
工事施工者：  
大竹建築工房 0296-71-8516  
延床面積(坪)：  
91.07m<sup>2</sup>(27.55坪)  
坪単価：  
653,000円(税込)



■ 近隣に苅畑が広がる広大な敷地。前の家で冬の寒さと階段に悩まされた施主が、階段による移動がない平屋、断熱性が高く、一年を通して温かく快適な家を希望した。■ キッチンを中心とした回遊性をもたせた。洗面所との動線でパントリーを設置、家事動線を短くし、片付けしやすい設計に。建具はすべて上吊り戸で段差をなくした。■ 木の温もりを感じる明るい雰囲気。■ 木の温もりを感じる。■ 木の無垢材により、夏は吸湿して蒸し暑さを緩和し、冬は放湿して乾燥を防ぐ。■ 気取らず、落ち着いた暮らせる、快適な木の住まい。永く愛せる家が誕生した。



申請者：木屋建築設計事務所 090-4831-1131

工事施工者：(株)大崎材木店 029-288-3535

延床面積(坪)：139.73m<sup>2</sup>(42.27坪)

坪単価：544,121円(税込)



■ 建物全体にかかる大屋根が重厚な外観。大屋根の伸びる南側の大きな庇が半屋外空間として内と外を結びつける。夏の日差しを遮り、冬は低い位置からの陽光を室内へ届かせる庇の下なら、雨の日でも外気に触れながら雨音を愉しめる。二階建てながら平屋に見える重心の低さが、外から見ると重厚に、内に向かって適度な開口となつて、趣きと表情を愉しむ住まいだ。■ 屋根断熱を採用し、通常なら屋根裏となる部分も部屋やロフトとして使え、空間を無駄なく使うプランとなった。床・梁・天井・コンクリート枠に杉を使用し、県産材に囲まれる温かな家となった。

# 苅畑に馴染む平屋

大竹建築工房 十 大竹建築工房

# ずしりたたたずむ家(下館の暮らし)

木屋建築設計事務所 十 (株)大崎材木店

## ご存知ですか？ 地域の木材を使うメリット。

### 1 地域の風土に馴染みやすい… 地域材は腐りにくく、家が長持ちするといわれます。



日本人は古来から、「地元の木を使った木造住宅」で暮らしてきました。今で言う「地産地消」です。  
木は、土地の気候風土、環境に適応しながら成長します。つまり、その土地で成長する`抵抗力、をつけながら育つということ。家づくりにその適応力を活かすことで、丈夫な家を作りだしているのです。

### 2 地域ごとの「つくり方」を熟知している… その土地の家づくりに精通した、身近なプロがいます。

「その土地で育った木を使って、その土地の大工が建てる家が、最も丈夫で安心して暮らせる」。気候の変化や風の入り方、夏の暑さや冬の雪の量に対応する方法など、その土地の「家のあり方」を最もよく知るのが、その地域の大工です。色々なことを知り、教えてくれる身近なプロの知識を最大限に活かす家づくりはいかがですか。



### 3 身近な環境で生まれそだった材料をつかう… 材料の輸送にかかるコストを軽減できます。



建材を家づくりの現場に持ち込むための運搬距離とコストは比例します。同時に、輸送過程でのCO2排出量は、地域材以外の外材を使う家づくりの数分の一に抑えられます。  
お財布と環境への負荷が少なくなること。  
地域材を使う家づくりの、大きなメリットのひとつです。

環境に優しく、コストを抑えながら、丈夫で安心できる家が実現。  
あなたの大切な家づくりをていねいに支える、地域材のご利用を推進しています。

茨城県木材協同組合連合会



## 「いばらき地域適合型木造住宅」とは？

### 気候風土を踏まえ、地域材を活用してつくる家。

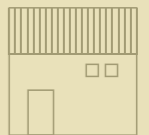
茨城県の気候・風土等の地域性を踏まえ、地域材(※)を活用し、かつ、ユーザーにとって充実感のある住宅とし、これからの木造住宅の指針となるべきコンセプトを明確にした住まい。

※地域材とは次のいずれかに該当する木材及び木材加工品。

- ①県内の森林から生産された原木により製材されたもの。②県内の製材事業所で製材されたもの。

【主な設計基準】

- (1) 地域材を構造材全数量の50%以上使用していること。
- (2) 内装材として、地域材を積極的に活用し、快適でやすらぎのある住空間とすること。
- (3) 住宅の長期の耐久性を確保し、また、地域の自然、景観、生活様式等と調和し、世代を超えて継承・持続されるような工法・間取り・デザイン等を採用すること。



#### なぜ地域材がいいの？

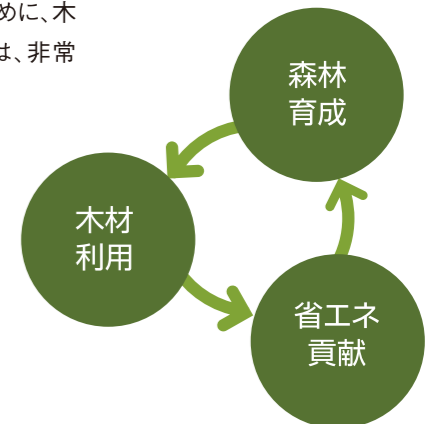
地域の森林の活性化を図り、  
地球にやさしい家づくりができる。

- 森林は、化石燃料などの代替エネルギーとして注目されています。成長期に高レベルの二酸化酸素削減効果を発揮し、地球温暖化の防止策としても役立ちます。
- 地域の森林資源を積極的に活用し、同時に植林を進め、常にバランスのとれた循環を整え、資源を生み出しながら、地球環境保護に貢献する森林を育成できる。地域材を使用する意義はここにあります。

#### 地球環境を守るサイクルとは？

「森林育成」「木材利用」「省エネ貢献」。  
次代につなぐ、大切なサイクルです。

- 森林を育成するためには、木材の利用を促進する必要があります。木材で建築資材を作ることは、他の原料よりも効率がよく、また余分なエネルギーがかかりません。冷暖房費の節約にもつながり、省エネへの貢献度も決して小さくありません。■家づくりに用いられた木材が、いずれ土をはじめとする自然に還り、また森林を育成していく…。自然の循環、持続可能なエネルギー確保のために、木を使って家を建てることは、非常に有用なのです。



令和三年度「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」の審査を終えて

一般社団法人茨城県建築士会 会長 柴 和伸



令和三年度「いばらき地域適合型木造住宅コンペ」には、建築設計事務所と地域の工務店それぞれの専門技術者の皆さんが協力し合いながら知恵を結集し、地域が育んだ木材を活用した作品のコンペでありましたが、五作品と例年に比べ応募作品が減少となりました。なかなか終息が見られないコロナ禍の影響も考えられます。

竣工した住宅によるコンペは、今年十一回目を迎え、設計者・施工者の経験と知恵を傾注し、五作品それぞれが敷地を有効に活かし周辺環境に調和した作品となっています。茨城の気候風土を踏まえながら、地域材を用い、設計者・施工者それぞれがその地域での生活の経験や知恵によって培われた専門技術を注いで造られた住宅であり、改めて木造住宅の素晴らしさを感じさせてくれました。

茨城県産木材を用いながら、木の持つ優しさ、あたたかさを生かした住宅揃いとなりました。

審査は、七名の審査委員それぞれが、

応募作品の中から最優秀作品「点」と、優秀作品二点の選出をし、そして投票をいたしました結果、最優秀作品「水と緑と木の家」、優秀作品「鮎川の家」の三作品に決定いたしました。

選外となった応募作品も、それぞれが県産木材を生かした力作であり、応募された方々には審査委員長として感謝申し上げますと共に、次の機会にはさらに一層の力作の応募をご期待申し上げます。

【最優秀作品】

「水と緑と木の家」

次世代への贈り物という考え方、無垢材という選択など、流れる水と緑のぬくもりが広がる家となっています。敷地の中心に庭を配し、そしてそれを囲むよう



に建物をコの字にし、主要居室を二階に配置することで、それぞれの居室から庭を愉しむことのできる空間となっています。

木材は、全て手刻み加工となっており、次世代に残す高い技術力によって完成されました。高度な大工技術の継承はたいへん大切なことであり、それぞれの仕事にも、地元の職人の技術、製材所の協力と、この住宅に関わった沢山の人の技術力の高さが結集された住宅と想像されます。

大黒柱、床、内壁、土庇、建具と、あらゆる部分に木材が使われ、木造のすばらしさを発信する住宅であるといえます。

【優秀作品】

「大島の家」

母屋と納屋がひとつの建物として構成され、広間、寝室、子供室を吹き抜けにし、台所、浴室の上部をロフトとして利用するなど、空間に変化を与えながら機能性に富んだ工夫されたプランとなっています。合法木材証明書により、グリーン化事業に積極的に参加され、地域産材の利用に取り組みられています。杉の一〇五角材を三尺ピッチで並べ、全て化粧材として表



し、外壁材も杉材を縦張りにして活用しており、床材、階段、建具などの内装にも八溝杉が使われ、住宅全体が木造のあたたかみのある印象の建物に感じられます。

【優秀作品】

「鮎川の家」

二階建ての事務所兼住宅の建物で、構造材は土台以外は地域材の杉材を使用し、地回りの横架材は同一断面の材料を使用するなど、構造的にも工夫がされています。また、構造材の見える化を図り、木のあたたかみを感じる工夫がなされています。

巾木、廻り縁などの造作材にも、地域

材の杉板を積極的に使用し、地域の人々に木の良さ、美しさを伝える住宅となっています。

外扉は桧板を無塗装で使用し、経年の変化を期待し、四季の変化を愉しむ空間が完成されており、この住宅に取り組み意気込みが感じられます。

建物は、住まい部分と事務室、来客室部を玄関部で分け、動線の分離を図り、住宅の共用部を二階に、プライベートな居室は二階に配置しています。

吹き抜けダイニングの障子に樹木が映り込むことで、部屋の中からも自然を間近に感じられ、玄関外部の格子状の目隠しなどにより、内観からも外観からも木造住宅の良さを感じることのできる住宅となっています。

●審査委員長  
一般社団法人 茨城県建築士会 会長  
柴 和伸

●委員  
一般社団法人  
茨城県建築士事務所協会 会長  
舟 幡 健

一般社団法人  
茨城県建設業協会 建築委員長  
沢 畑 正 剛

茨城大学工学部都市システム工学科  
教授

熊澤 貴之

茨城県木材協同組合連合会  
木造建築部会長

浅川 清司

茨城県農林水産部  
次長 兼 林政課 課長

加藤 剛広

茨城県土木部  
都市局住宅課 課長

大森 智